

Press Release

報道関係者各位

2010年5月24日

東京大学大学院情報学環長 石田英敬

制作展担当教員 荒川忠一

「東京大学制作展エクストラ 2010」開催のお知らせ

I AM ING

THE UNIVERSITY OF TOKYO iii EXHIBITION EXTRA 2010

開催概要

名称：東京大学制作展エクストラ 2010 []ing

会期：2010年6月10日～15日（11:00～19:00）

会場：工学部2号館2階展示室・2階フォーラム（中庭）

入場料：無料

URL：<http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp/>

主催：東京大学大学院 情報学環・学際情報学府

Opening Reception

日時：2010年6月10日（木）17時30分～

場所：東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館

広報担当者連絡先（広報担当 檜崎）

[phone] 08041603260

[e-mail] i3exhibition@gmail.com

お電話によるお問い合わせは、報道関係の方に限らせていただきます。

詳細は5ページをご覧ください

What's 東大制作展

東京大学制作展は、2004年に東京大学大学院 情報学環・学際情報学府の講義の一環として始まった、学生を主体とするメディアアートの展覧会です。今回で13回目の開催となります。日々学生たちが研究している技術をわかりやすく、そしてまた想像力豊かに表現することを目的としています。制作展は、夏学期と冬学期の年二回それぞれ一週間ほどの会期で開催されています。

この制作展では、個々の作品制作に加えて、会場設計から広報活動までの企画・運営も、授業担当教員の指導のもと学生が主体となって行っています。各部門の統括を行う「プロデューサ」を中心に、ポスターやチラシなどを制作する「デザイン」、プレスリリースの発行など学内外に対して情報を発信する「広報」、展示内容に関するWebページ制作を行う「Web」、会場における空間設計や演出を行う「会場」、活動を記録しアーカイブ化する「記録」等の班が円滑な運営に向けて連携しながら活動しています。

東大生が切り取る“いま”

今回の制作展のテーマは“[] ing”。個々人の内に起こる「ing」に焦点を当てました。その理由は二つあります。第一にメディアアートは、鑑賞者と作品との間でその都度作品体験が生まれるという特徴を強く持っていることが挙げられます。従来のアート作品とは異なり、メディアアートは作品の受け手そのものが作品の一要素を構成しているため、字義通りの意味で、その時々において作品体験が生まれていると言えます。つまり現在進行形で作品体験が生まれているのです。第二に、TwitterやUstreamなど“いま”を配信するメディアが現在大きく注目を集め、現に社会のコミュニケーションを変容させているという理由があります。現代ほど“いま”が重要な時はありません。制作展の主眼も、他ならぬ「“いま”を捉えること」にあるのです。東大生が切り取る“いま”をぜひ御覧下さい。

ご挨拶



荒川忠一 ARAKAWA, Chuichi

東京大学制作展担当教員

東京大学大学院 学際情報学府教授

東京大学大学院 工学系研究科教授

本年度も無事「東京大学制作展」を開催する運びとなりました。今回の「東京大学制作展エクストラ 2010」も、例年通り東京大学大学院情報学環・学際情報学府の授業の一環として、学生たちが自らの研究関心をその枠に留まらぬ発想力をもって表現する機会という位置づけがなされています。今回も例年に違わず学生たちの創造力と実行力が発揮されており、御来場された方々には驚きと発見をお持ち帰りいただけることと信じております。

この制作展も回を重ねるごとに多くの方々に来場していただけるようになりました。その認知が広がってきたと感じられる一方で、制作展の意義が模索され始めている時期でもあります。ただしそれは決して否定的な意味合いを持つものではありません。暦の上でも新しい十年代が始まった現在、制作展というこのチャレンジングな試みも新しい転回を図ろうとしているのです。回数を重ねることで生まれる予定調和を打破し、時代の次のフェイズを垣間見させてくれるような想像力を今後も発信していこうという強い意思が、教員・学生からなるこの制作展関係者を支えています。そしてこの思いを、来場された皆さんとともに共有できることを教員・学生一同願っております。

お越しいただいた方々には、ぜひこの場で抱いた感想や思いを広めていただき、文字通り関心の「環（わ）」を作っていたいただければ望外の喜びです。

ご挨拶



坂田 圭史 SAKATA, Keishi

東京大学制作展プロデューサー

東京大学大学院学際情報学府 文化人間情報学コース
荒川研究室 修士 1 年

最近では、“メディアアート”という言葉も広く浸透し、様々な場所で沢山のメディアアートの展覧会が行われるようになりました。メディアアートという言葉や、またその意味を、改めて考える時代にきているように感じています。

そのなかで、私たち東京大学の学生だからこそできる、メディアアート表現、またメディアアート展覧会とは一体どのようなものなのでしょう。ここ東京大学大学院 情報学環・学際情報学府には、様々なバックグラウンドを持つ多くの人が集まります。それらの研究分野をひとつの環としてつなぎ、メディアアートに対するひとつの解釈を紡ぎ上げるプロセス、それが“東京大学制作展 iii Exhibition”です。また、制作展は作品制作から運営までのすべてを、学生達が主体となり作り上げます。作品をつくる人もいちスタッフとして運営に携わることで作品と制作展自体とが密につながり、私たちが考えるメディアアート、そしてメディアアート展覧会をより具現化することができると考えています。

今回の“iii Exhibition Extra 2010”のコンセプトは、“[]ing”です。メディアアートが持つ、作品と体験者を現在進行形でつなぐ特徴的な魅力に注目しました。また、様々なバックグラウンドを持つ私達、各々の“いま”を集め、ひとつの制作展として表現しました。

皆様なりの“[]ing”を、この制作展から感じていただけたら幸いです。

Opening Receptionのご案内

是非お越しの上、取材および掲載のほどよろしくお願い致します。

開催日時：2010年6月10日(木) 17時30分～

集合場所：東京大学本郷キャンパス 工学部2号館

17時30分：オープニングセレモニー(於：工学部2号館展示室)

18時00分：ギャラリーツアー(於：工学部2号館展示室)

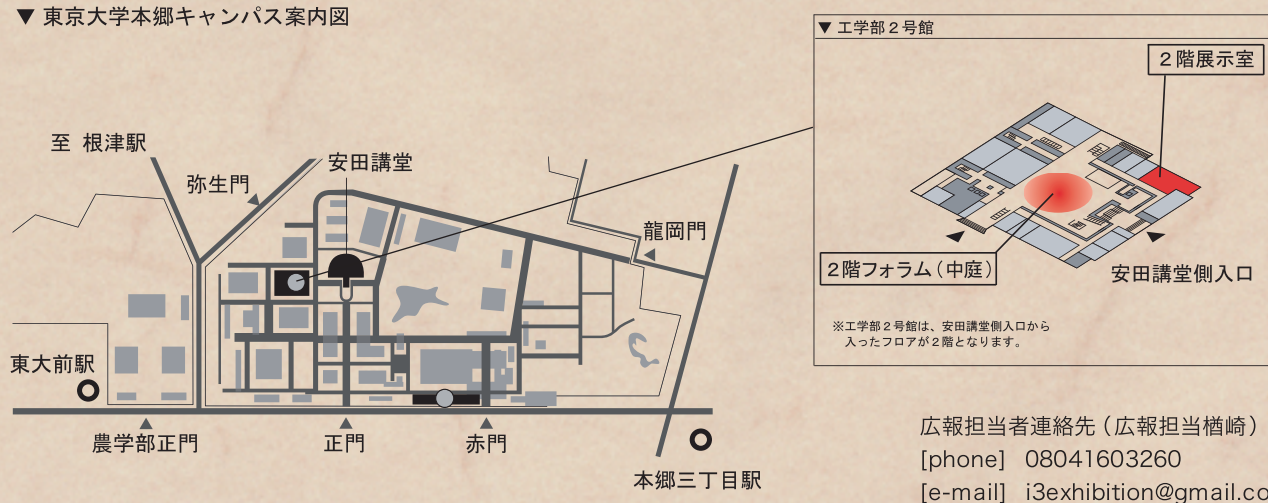
18時30分：ギャラリーツアー(於：工学部2号館2階フォーラム)

19時00分：懇親会(於：工学部2号館フォーラム)

レセプションについて

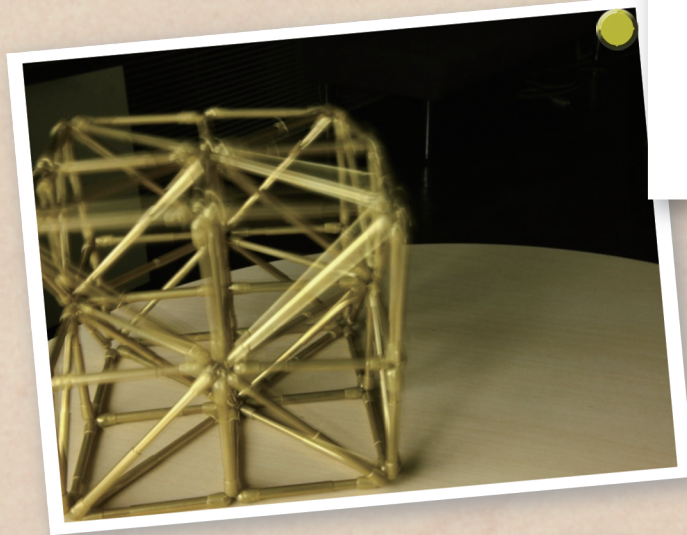
2010年6月10日(木)17:30よりオープニングレセプションを開催いたします。セレモニーでは、石田学環長およびプロデューサー坂田より皆様にご挨拶させていただきます。ギャラリーツアーでは、メディア・アーティストの鈴木太郎(授業担当・非常勤講師)と作家たちが各会場を巡り、各々の作品を一点ずつご紹介いたします。その後、担当教員や作家との懇親会を開催いたします。皆様との懇親の場となれば幸いです。是非ともご参加くださいますよう、よろしくお願い致します。

▼ 東京大学本郷キャンパス案内図



展示作品紹介 1/3

詳細情報：<http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp/i3eex2010/i3e-works.html>



栗山 貴嗣 + 和田 拓朗
“SimJelly”

一見すると固そうな金属の立方体ですが、さわるとまるでゼリーのような感じです。コンピュータグラフィックスで用いられている柔らかいものを表現する技法を、実世界に逆輸入しました。ぜひさわって体感してください。

岸 遼 + 深沢 尚史
+ 寛 康明 + 苗村 健

“SteganoScan Orbs”

SteganoScan Orbs ではお盆の上を転がるボールが場所に応じて様々な色に光ります。「ボールを転がす」という意図的な行為と衝突などの偶発的な現象によって、形態が変容し、空間を彩るディスプレイです。



山田 啓己 + 遠藤 麻衣
“The name of being”

花を水中にいけることで、花言葉の散文詩を綴ることができます。”生命”の表現。”生命の存在”すなわち”世界に痕跡を残すこと”、また他の生命の生死をコントロールしてしまう”人間”という生命への問いをテーマにしています。



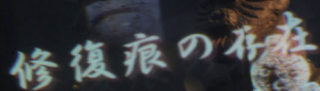
大岩 良行 + 小倉 太郎
“すすんで、つないで。”

体験者が作品空間の中に入ると、体験者の周りにその体験者固有の物が現れます。そして、体験者同士が近づくと、その生物は融合し、進化します。「出会い」により、お互いの個性が交わっていく様子を実感できるでしょう。

詳細情報： <http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp/i3eex2010/i3e-works.html>

横尾 俊輔 + 勇木 徳仁

ユーズはこの作品を使って音ではなく香りを“演奏”することができます。普段の生活では意識しない香りの調和や不調和を意識しながら、自分の好きな香りを探して作ってみてください。



ExFloationでは、実体である展示物の周りの空間に、バーチャルな映像を3次元的に浮遊表示します。裸眼で鑑賞が可能です。

展示物の持つ情報を浮遊像として表示することで、直感的でわかりやすく、かつ視覚的に面白い展示支援を目的としています。



TwitterにはRT (ReTweet)、replyといった、呟きに対する呟きがあります。無数の呟きの関係性を可視化してみると、呟きと呟きがつながって、広がっていく様子が視えます。普段は視えない呟きの「つながり」、「広がり」を感じてください。

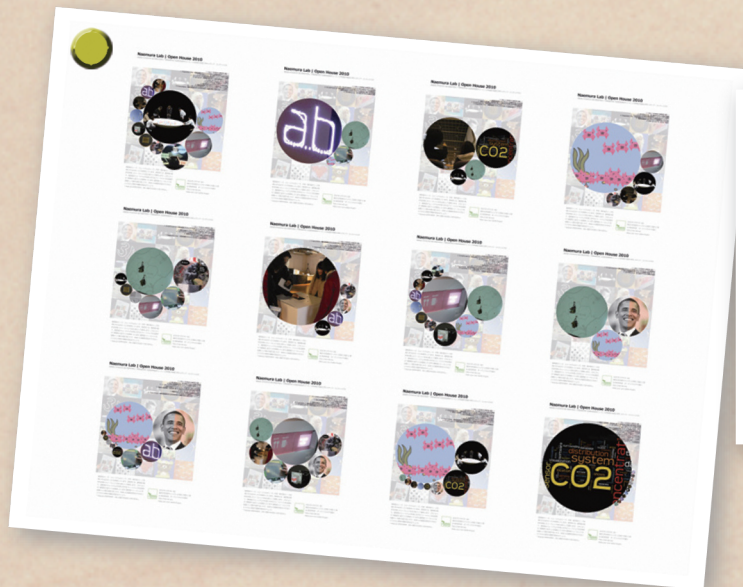


複数の体験者が弦のインターフェイス操作により水の動きを発生させ、その干渉により音響表現を行うことができます。複数の体験者の行為が干渉し合うことで、音楽演奏の際に演奏者が感じる共有感覚を感じていただければ幸いです。



展示作品紹介 3/3

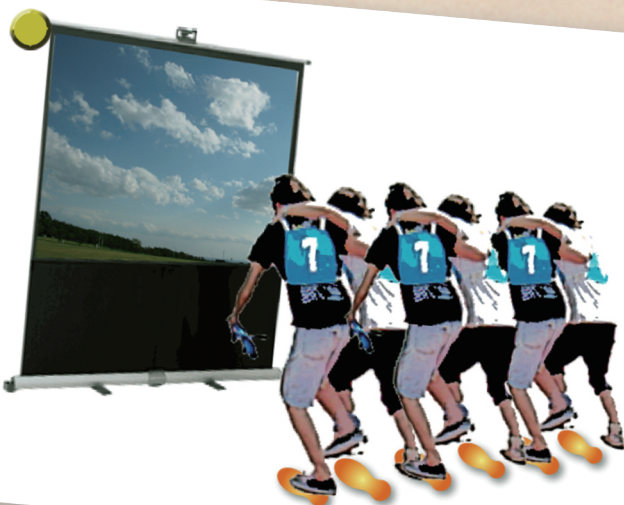
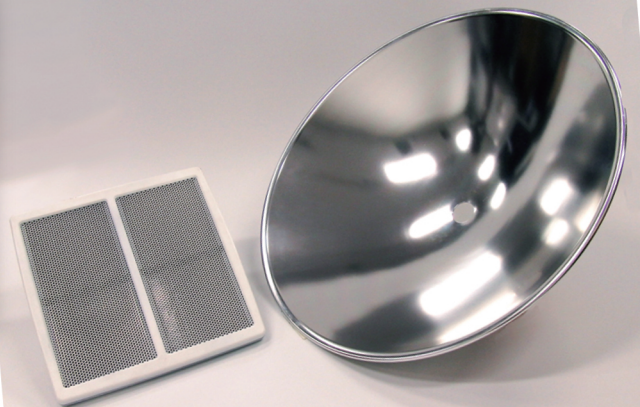
詳細情報：<http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp/i3eex2010/i3e-works.html>



ソンヨンア + 橋田 朋子
+ 笥 康明 + 苗村 健
“Peaflet”

Peaflet は、個人の鑑賞体験を反映したレイアウトのリーフレット (Personalized Leaflet) をお土産として提供する展示支援システムです。是非体験し、自分だけのお土産をお持ち帰りください。

木村 健太郎 + 村上 一久 (RELISTA)
“Public-Private Address”
鑑賞者の立つ位置によって、聴こえる楽器の音量が変わる作品です。複数の楽器が奏でる音のバランスを、自分好みに調和させることで得られる「世界の変化」を表現しました。音楽に加わる楽しみを体全体で感じ、最高の音を探してみてください。



佐藤 彩夏 + 横窪 安奈 + 鷺坂 隆志
“何人何脚！？”

何人何脚！？では、二人三脚（人数をどんどん増やせます）で足並みを合わせることで目の前の映像が動き始めます。みんなで足並みを合わせることで映像を変化させていくので、映像＋身体表現により一体感を感じ取ることができる作品です。何人何脚！？を使って一緒に楽しみましょう。

Information

制作展ホームページ

<http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp>

制作展担当教員

荒川忠一

東京大学大学院学際情報学府教授

東京大学大学院工学系研究科教授

鈴木太郎

東京大学大学院情報学環

(非常勤講師)

お問い合わせ先

制作展担当窓口（担当者：榑崎）

[e-mail] i3exhibition@gmail.com

[phone] 08041603260

主 催

東京大学大学院

情報学環・学際情報学府

▼ 東京大学本郷キャンパス案内図

